

## 伝統芸能映像記録等保存事業 南恩納の豊年祭

一般財団法人地域創造の助成事業として、南恩納の豊年祭の伝統芸能映像記録保存事業を実施しました。南恩納区は、1944年(昭和19年)4月1日に字恩納より分字した歴史の浅い行政区です。もともとは琉球処分によって職を失った首里の士族が恩納村字恩納の馬場、赤崎、屋ヶ田に住み始めてできた屋取集落が南恩納であり、分字前は字恩納の一員として恩納区の豊年祭に参加していました。

その頃に南恩納の人々が出演を許されたのは雑踊りや狂言(チョウギン)のみでしたが、その師匠を務める者もあり、分字を機に南恩納の師匠となって踊りを伝え続けてきました。

南恩納区としての第1回目の豊年祭は戦後間もない1947年(昭和22年)11月27日に区事務所の落成記念に行われました。時代の流れとともに現在では3年に一度行われる区の大きな行事となっています。

今回、新型コロナウイルス禍により7年ぶりの開催となった「南恩納の豊年祭」をとおして、地元の伝統芸能の継承と地域の繁栄を願う人々の姿を記録しました。



実行委員会の様子



豊年祭の準備



団結式



南恩納区青年会エイサー練習・激励会



旗スガシ



豊年祭前の練習風景



師匠からの指導風景



豊年祭「鶴亀松竹梅」



▲型の解説編の撮影風景

完成した南恩納の豊年祭DVD▶

